は　じ　め　に

日本の結核罹患率は年々減少傾向にあり、平成２６年においては人口１０万人あたり１５．４人になりました。一方で、年間約２万人もの方が結核を発症しており、先進国の中では依然として高い状況にあります。また結核は、未だ、わが国最大の感染症の一つであり、患者の高齢化や地域偏在など様々な課題を抱えています。結核罹患率の低下のためには、今後も国をあげて、一層の対策活動に取り組む必要があります。

本県の患者数を見てみると、平成２６年は前年に比べ４人増加し、２８１人となっています。全国のデータと同様、緩やかな減少傾向にあるものの、新登録患者に占める７０歳以上の割合は年々高くなっています。高齢者の割合は全国平均よりも高く、高齢化が進んでいると言えます。また保健所間での罹患率に格差が認められる場所もあります。

本県においては、「熊本県結核対策プラン」に目標値を掲げ、結核の発生予防とまん延防止、良質な医療の提供等について、市町村や医療従事者等の関係者と連携しながら取り組んでいます。平成２６年の県の罹患率は人口１０万人あたり１５．７ポイントと昨年と比較して０．３ポイント上がっていますが、平成２７年の目標値として掲げた１５にあと一歩で届くところにあります。

ここに、平成２６年の結核発生動向調査の結果を「熊本県の結核」として取りまとめましたので、御高覧いただき、今後の結核対策の推進に一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成２８年２月

熊本県健康福祉部健康危機管理課長

岡﨑　光治